

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1473800637
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム 翠嵐の風
訪問調査日	令和7年9月18日
評価確定日	令和7年10月29日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は23項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和7年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473800637	事業の開始年月日	平成16年4月1日
		指定年月日	平成16年4月1日
法人名	社会福祉法人 秀峰会		
事業所名	グループホーム 翠嵐の風		
所在地	(224-0001) 横浜市都筑区中川8-11-18		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	令和7年9月8日	評価結果 市町村受理日	令和7年11月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

横浜市営地下鉄センター北より徒歩8分。四季折々の草花が咲く中庭を平屋の建物が囲み、どのユニットからも庭を眺めることができます。中庭ではベンチに座りお茶をされたり、季節ごとのイベントを開いてご利用者の皆様には楽しんで頂いています。また周囲の環境にも恵まれ自然が多く、川沿いの風景を楽しみながらの散歩が日課となっています。翠嵐の風は経営母体である秀峰会の理念に沿い、地域と繋がりながらご利用者の皆様が暮らしていけるよう日常的に交流をしています。また災害時等の連携も図っています。医療面では医師・看護師との連携を図り、ご利用者の健康管理や緊急時の対応に応じています。ご利用者お一人ひとりがその人らしく豊かな人生を感じて頂けるよう支援に努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和7年9月18日	評価機関 評価決定日	令和7年10月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は社会福祉法人秀峰会の運営です。同法人は横浜市内を中心に介護・保育・クリニック・地域ケアプラザ・地区センター・障害者特定相談支援などの多岐に亘る事業を展開しています。介護事業においては、特別養護老人ホーム・グループホーム・小規模多機能型居宅介護・デイサービス・ショートステイ・定期巡回・随時対応サービス・夜間対応型訪問介護・訪問介護・訪問入浴・居宅介護支援まで、さまざまな利用者のニーズに応じたサービスを提供しており、グループホームは横浜市と川崎市で合わせて10事業所あります。ここ「グループホーム翠嵐の風」は、横浜市営地下鉄・グリーンライン「センター北」から徒歩8分程の立地にありながらも、近くには鶴見川の支流である「早淵川」が流れ、畑や自然にも囲まれた閑静な場所にあります。また、中庭には、桜、紅葉、梅、ざくろ、はなもも、さるすべり、プラム、くろがねもちなどの様々な木々が植えられており、設置されているベンチやウッドデッキから四季折々の自然を楽しむこともできます。

●事業所は建物2棟からなる3ユニットと規模も大きいことから、管理者は定期的に各ユニットをラウンドし、職員とコミュニケーションを密にしながら個別に話を聴くなどして、全体の把握に努めています。また、各ユニットごとにユニット長(正職員)を配置し、現場はユニット長が、全体的な統括を管理者が行うなど、業務を分担することで円滑に業務や運営が行えるようにしています。さらに、ユニット長は現場における課題や問題点を抽出して把握し、月1回の正職員会議で報告を行い、共有しながら事業所全体で改善・解決を図り、全体的な資質向上につなげています。

●管理者は「入居者に合わせた生活」をケア方針に掲げています。職員には業務主体でなく、入居者が主体であることを理解して業務やケアを行うよう、各ユニット会議で職員に伝えています。大まかなタイムスケジュールは決まっていますが、その中でも時間に幅を持たせることを意識してケアを行うことで「入居者に合わせた生活」に基づいた支援が実践できるよう取組んでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 翠嵐の風
ユニット名	紫苑棟

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3, 利用者の1/3くらいの
	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3, たまにある
	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3, 家族の1/3くらいと
	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	○ 2, 数日に1回程度ある
	3, たまに
	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	○ 2, 少しずつ増えている
	3, あまり増えていない
	4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3, 職員の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	○ 2, 家族等の2/3くらいが
	3, 家族等の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を毎日の朝礼時に唱和し共有を図り、深められている。地域密着をベースにした理念のもと、日々のケアの組み立て、ケアカンファレンスにおける方向性の確認を行い実践につなげている。	法人の理念は玄関に掲示するとともに、毎日の朝礼時にも唱和して理念の浸透を図っています。また、理念や方針等が記載されている「羅針盤」が入職時に配布され、職員は名札に入れて携行しています。さらに、ケアカンファレンスにおいて、理念に則した支援が実践できているか、折に触れて振り返るようにしています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域住民の方々との相互交流を推進している。（事業所で行う秋祭り、防災訓練等への案内、地域行事/町内盆踊り、運動会等）への参加をしている。	自治会に加入しており、回覧板を通して地域の情報をしている他、運営推進会議でも情報収集に努めています。散歩時の挨拶や清掃活動にも参加し、交流を図るようにしています。事業所主催の秋祭りや防災訓練、近隣中学生による発表会の受入れ、法人内の保育園児との交流会など、積極的に地域との関わりを持つようにして、入居者が地域とのつながりを実感できるよう支援しています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事の参加他、定期の避難訓練時などに近隣の方々をお招きした際や、運営推進会議の時などに現状をお伝えし、ご理解を頂く努力を継続している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の運営状況を報告した上で、参加者から運営状況に関する意見や助言、地域情報などを頂き、職員間で共有するとともに日々のサービスにつなげている。令和6年度以降対面での会議に移行済み。	現在は奇数月の第2土曜日に開催していますが、第3同曜日開催への変更を検討しています。町内会長・副会長・地域包括支援センター職員・各ユニットから1家族ずつに声かけし、事業所の現状や活動状況、事故やヒヤリハットもあれば報告しています。地域行事等の情報提供もあり、活発な意見交換が行われています。運営推進会議の内容は議事録を作成して全家族へ郵送するとともに、職員には回覧で共有しています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括センターの職員に参加して頂き、運営状況の報告を行い、意見助言を頂いている。（同上）	事業所として、横浜市のグループホーム連絡会に加入しています。研修案内も送られてきますが、現在は参加が難しい状況であり、今後折をみて参加していきたいと考えています。地域包括支援センターとは、運営推進会議に参加していただいた際に、意見や助言を求めるなどして、サービス向上に努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する研修を定期的に関催、全職員が身体拘束廃止についての理解を深め日々のケアに取り組んでいる。	3ヶ月に1回開催している身体拘束廃止委員会は、正職員会議の中で開催しており、入居者対応やケアの場面で身体拘束(スピーチロックを含む)に該当する対応がないか確認しています。事業部研修(年1回)、事業所内研修(年2回)でも具体的な行為や言動などについて学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。管理者は不適切ケアの「なぜ」をきちんと説明することで、職員の理解を深めるてもらうようにしています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止法に関する研修を定期的に関催、全職員が虐待防止についての理解を深め日々のケアに取り組んでいる。また、毎年高齢者虐待自己点検シートを利用し点検を行っている。	虐待防止委員会は、身体拘束廃止委員会と同日に正職員会議の中で開催しています。入居者の対応で苦慮していることや不適切ケアについて話合った内容は議事録に残すとともに、職員に共有しています。年1回は全職員を対象に虐待に関する自己チェックを実施し、集計結果をフィードバックして職員に周知しています。事業部研修(年1回)、事業所内研修(年2回)でも具体的な行為や言動などについて学び、虐待をしないケアに取り組んでいます。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を定期的に関催、全職員が理解を深められるよう取り組んでいる。ご案内ファイルにもパンフレットを準備し、制度の利用を検討されているご家族に対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時の際、難しい言葉についてはご家族に分かる言葉に置き換えるなど工夫しながら丁寧な説明を行い、ご家族からの疑問には担当部署職員の協力も得ながら説明し、ご理解の確認を行っている。入居前の施設見学時より、重要事項については伝えるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会、運営推進会議、ご家族訪問時等において意見、要望を確認している。またケアプラン更新時においてプラン説明とともにご意見を確認している。	入居契約時に、重要事項説明書に明記している苦情相談窓口について説明しています。また、各ユニットの玄関に意見箱を設け、家族が自由に意見や要望を表出できる環境を整えています。家族からの意見や要望は面会に来られた際や運営推進会議、年2回の家族会(6月、12月)で伺っています。また、年4回発行しているお便りや、毎月請求書と併せて個別の手紙も郵送しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、毎月のユニット会議で職員からの意見、提案を徴収し業務改善につなげている。日々の業務においても随時意見を吸い上げている。また半期ごとに職員会議の場において事業所運営の報告をしている。	事業所は3ユニットあることから、管理者は出勤時に各ユニットをラウンドしながら職員からの意見や提案を聴くようにしています。毎月、正職会議、全体会議、ユニット会議の4会議が開催されています。また、毎月各グループホームの管理者が参加する管理者会議も開催され、管理者会議の内容については、正職会議で共有されています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段よりコミュニケーションを図ることを意識し、適宜面接を行い各自が目標を持ち業務に当れるよう取り組んでいる。	職員面談では、職員の健康状態や職場内の人間関係など、多岐に亘る話を聴きながら、働きやすい職場環境整備に努めています。法人では、退職金制度、永年勤続表彰(10年・20年)、ハマふれんど等の福利厚生充実や、半期ごとに「出航の誓い」(個人目標)を作成しており、各自が向上心を持ちながら働ける取組も行われています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のレベルに合った法人内外の研修への参加を勧めている。研修計画の案内、またそのためのシフト調整を実施している。	入職時は3ヶ月間のOJTを設け、入居者ごとに異なるケアの注意点や勤務帯における業務の流れについても説明を行っています。毎月実施している事業部研修では、各事業所から職員1,2名が参加し、事業部研修に参加した職員によるフィードバック研修や、年間研修に基づく事業所内研修の2本立てで知識やスキルアップの向上に努めています。法人では資格取得支援制度を設けており、外部研修が受講しやすい環境が整っています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人同地区の各サービス事業所との交流を適時行い、情報共有しサービスの質向上に向けた取り組みを行っている。グループホーム連絡会に参加までは至っていないが、情報を得る努力をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の施設見学時点より、困りごとやご要望等、また生活歴を含めた情報収集を行い入居当初の関係づくりに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至る経過、生活、対人関係、ご本人・ご家族の不安や要望を傾聴し、安心できるグループホームでの生活が提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける際、ご本人・ご家族のニーズを見極め、GHにおけるのサービス内容と照らし合わせながら出来る事出来ない事の提示と、出来ない事に対しての代替案を提示しながら、今必要とするサービスの紹介に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念を忘れず、ご本人の特徴、強みを大切に生活が送れるように支援を行っている。またご利用者の気持ちに寄り添い日々生活を共にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に可能な限り面会に来て頂きたいことを随時お伝えして、訪問しやすい環境を作っている。またご家族がホームの活動に参加できる場面や機会を作っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様のご許可を得たうえで友人や知人の訪問を受けている。また電話の自由使用・取次ぎを行っている。盆や正月等親戚の集まる場への参加や帰郷を支援している。行きつけの美容室、利用医療機関等の関係を継続できるよう支援している。	入居後も家族関係や友人・知人との交友関係を継続できることを伝え、面会に来ていただけるよう声かけしています。現在は面会に関する制限はなく、自由に面会に来ていただいています。面会の頻度は入居者によって異なりますが、家族や親類のみならず、琴教室時代の教え子や友人が来られる方もいます。また、定期的にお墓参り、海外旅行、帰省されている方もおり、馴染みの関係を継続できるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は一人ひとりのご利用者を良く理解し、アクティビティへの参加、ご利用者同士の関わり合いを配慮しながら環境・場面を提供している。少しずつユニット間の交流をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、入居中の生活やケア内容についてなど必要に応じてご家族様に提示している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々交わす会話の中から聞かれるご希望やご意向、困難な場合はこれまでの生活歴やご本人様の行動、ご家族様からの情報を通じて推測されるものなどをケースカンファレンスにおいて情報共有しながら支援につなげている。	入居に伴うアセスメントで、家族に過去の生活歴、既往歴、趣味嗜好品、暮らし方の希望など、本人に関する情報を記入してもらっています。アセスメントの情報を基に日々の関わりの中で、本人の言葉や表情、仕草などから得られた情報を記録に残すとともに、ケアカンファレンスなどで情報を共有しながら思いや意向の把握に努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時アセスメントにおいて生活歴・馴染みの暮らし方・生活環境・これまでのサービスの利用状況を把握している。入居後においてもより詳細な情報を得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で関わりながら、心身状態の変化への気づき、今できることできないことを見極め、申し送りやカンファレンスにて周知を図り、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者・ご家族の意向を伺い、また本人がより良く暮らすための工夫や意見をケースカンファレンスや申し送りの中で話し合い、本人主体で生活が出来る介護計画の作成に努めている。また、医療専門職など他職種との連携にも努めている。	アセスメントで得られた情報を基に初回の介護計画を作成し1ヶ月を目安に身体状況の情報収集に努め、翌月のケアカンファレンスで必要に応じて介護計画の変更を行っています。ケアカンファレンス前には、モニタリング表に気づきや介護計画の実施状況を記入してもらい、それを基にアセスメントシートを作成して、ケアカンファレンスで課題やニーズの抽出を行っています。介護計画の見直しは概ね4ヶ月を基本としていますが、状態の変化があれば都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活や健康状態等、ケアの実践・結果・気づきを記録に残し、職員間で共有しケアや介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者・ご家族を取り巻く状況の変化に応じて、行政のサービスや利用可能な民間のサービスの紹介を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方による定期的な訪問、多彩な活動への参加、地域主催の行事への参加、飲食や買い物等生活の行動範囲を拡げ、楽しく豊かな生活の支援に努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による訪問診療を利用する方と在宅時からのかかりつけの医療機関を継続利用している方がいらっしゃるが、どちらも受診時に生活の様子・身体状態等伝え、連絡がとれる関係を築いている。	入居時に事業所の協力医療機関に切り替えることのメリットとデメリットを説明したうえで、家族の判断に委ねています。現在は1名の方が従来のかかりつけ医を主治医としていますが、他の方は協力医療機関による月2回の訪問診療を受診しています。法人内の訪問看護ステーションの看護師とは24時間のオンコール体制を取っており、夜間や急変時には看護師を通して指示を仰いでいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護師訪問時における介護職員との情報交換、随時の介護職員からのご利用者の状態変化や気づきの報告、相談から、観察視点の指示や、医療機関受診等の助言をもらいながら健康面での支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の必要情報を関係機関に速やかに伝えるようにしている。また、早期に担当医師や相談員に面談し身体状態や今後について話し合っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化・終末期に関わる指針を示し説明、同意書に事業所の対応等の確認事項を記載し同意を得ている。	事業所では終末期ケアまで対応する方針であり、入居契約時には「終末期に関する指針」について説明したうえで同意書を取り交わしています。主治医の判断の下、実際に看取りが想定された段階で主治医から直接家族に話をしてもらうようにして、今後の方針を共有しながらチームとして終末期ケアに臨んでいます。看取りを行った後にはデスクカンファレンスを行い、全員で振り返りながら、次に活かすようにしています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、確認しやすい場所に設置している。定期的に研修を開催し知識・技術の習得に努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練を年複数回行なう事を目標とし、多くの職員が参加できるようにしている。座学の勉強会も行っている。町内会、家庭防災員との協力体制が出来、意見を頂けている。	事業所の近くには鶴見川の支流である「早淵川」が流れていることから、浸水を想定した訓練を1回、昼夜を想定した防災訓練を年2回行っています。BCP(事業継続計画)に基づいた訓練及び研修も年2回実施しています。備蓄品は水、食糧、衛生用品、ランタン、ヘルメット、カセットコンロ等を準備しています。運営推進会議でも、町内会や家庭防災員と協力体制の構築に努め、意見をいただきながら地域と連携した防災対策の推進を図っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の理念に基づきご利用者お一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう言葉かけや対応に配慮している。また、個人情報に関しても守秘義務の徹底に努めている。定期的な研修開催とともに、職員個人目標を設定し取り組んでいる。	入職時に個人情報保護に関する誓約書を取り交わすとともに、個人情報保護や秘密保持に関する研修を実施しています。フロアで行っている申し送りでは、イニシャルで行うなどの配慮をしています。また、全職員が携行している羅針盤の中にある行動指針の中に「あたたかい心もこもったご挨拶で対応します」や「正しい言葉遣いをします」が定められており、職員は入居者の尊厳を損なうことのない対応を徹底しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々関わりの中でその方の希望や関心事を見極め、ご本人が選び易い場面づくりをしている。言葉だけでなく表情や行動を観ながら思いの把握に努めている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムに配慮しながら、起床・食事・入浴・就寝時間等柔軟に対応している。その方のペースを大事に待つケアを重視している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者個々の個性を尊重し、生活場面に合わせたその人らしい服装を支援している。訪問美容ではカット・パーマ・毛染め等ご本人の意向に添っていただいている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配達業者により、高齢者向け福祉メニューを利用。季節感が感じられるものや、時にはご利用者からのリクエストに応えメニューに変更している。食事準備から片付けまで、ご利用者と共に行い役割創出を心掛けている。心地よいBGMをかけたり食事が楽しめるような環境づくりをしている。	食材業者からレシピ付きで食材を発注し、職員が調理した物を提供しています。庭で収穫した季節野菜を追加したり、誕生日などの行事と併せて食材の発注を止めてリクエストに応じた食事を提供するなど、楽しんでいただけるようにしています。できる方には調理(カット、炒め)や盛り付け、食器拭きを手伝っていただき、残存能力の維持につなげています。お祭りやベトナム交流会では、屋台の定番料理や、ベトナム料理など、普段味わえない食事を楽しんでいただいています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者一人ひとりの食事摂取量は毎食確認している。水分においても制限や摂取量が少ない方に対しては毎回の確認を行っている。またご利用者の体調や状態によっては食事形態を変更しながら摂取量に注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者お一人ひとりの習慣やできること・できないことを把握し、個人の能力に応じた支援をしている。ご希望の方には、歯科衛生士による口腔ケアが受けられる体制を整えている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ケースカンファレンスにおいてその方の排泄パターン等の共有を図り、自尊心を傷つけない排泄支援に努めている。意志伝達が出来ない方は、表情・言動を観察しながら適宜トイレにご案内し失敗しない排泄ができるよう支援している。	事業所では、可能な限りトイレで排泄していただくことを基本とし、失敗があった方でも安易にオムツを使用するのではなく、ケアカンファレンスで誘導のタイミングなどを話し合いながら、自尊心を損なわない排泄支援に努めています。夜間は個々に応じた対応を基本とし、ポータブルトイレを使用する方、トイレにお連れする方など入居者の状態に合わせ対応で支援支援しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師・看護師より便秘の原因や及ぼす影響について助言を頂きながら、体操・腹部マッサージ・散歩・繊維質・腸内環境を整える乳酸菌飲料・水分量の確保等、個々に応じた予防・改善に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	できる限りお一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、ゆったりと気持ちよい入浴ができるよう配慮している。排泄失敗等あった場合等、必要に応じて入浴機会を作るようにしている。	入浴日を決め、バイタルチェックと本人の意向を確認したうえで入浴を促しています。週2回の入浴を基本とし、入浴回数は入浴表を確認しながら全員が均等に週2回入浴できるようにしています。現在は同性介助や入浴拒否のある方はいませんが、希望があれば可能な限り同性職員を付れたり、職員や日にちを変更するなど柔軟な対応を心がけています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は家事、レクリエーション、散歩等の活動を通して夜間の安眠につなげられるよう努めている。習慣や身体状況、活動に合わせて日中において休息がとれるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者が使用している薬剤の治療目的・薬の用法や用量を把握し、医師の指示通りに服薬できるよう支援している。また、いつでも確認できるよう、ご利用者個々の処方箋をファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々日常の中で、お一人ひとりの楽しみや役割、出番が見出せるよう、場面作り等行っている。認知症の進行が見られる方も同様にその方が持つ強みを生かす支援に努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買物や散歩の他、外食や地域の行事等に出かけられるよう支援している。 知人やご家族面会時にも、外食や散歩に出かけられるよう支援している。	事業所は平坦な場所にあり、近くには鶴見川の支流である「早淵川」が流れ、散歩コースに取り入れています。また、比較的近くにファミリーマート、港北みなも(商業施設)、モスバーガーもあり、入居者をお連れして買い物などを楽しんでいただくこともあります。中庭には、桜、紅葉、梅、ざくろ、はなもも、さるすべり、プラム、くろがねもちなどの様々な木々が植えられており、四季折々の自然を楽しむことができます。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族と話し合い、所持金の管理ができるか把握して、できる部分はやっけていただいている。買い物では、ご本人の能力に応じてご自分の財布から支払できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の携帯やホームの電話を自由に使用している。 年賀状等の手紙のやり取りを支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は温かく和やかな生活的な雰囲気をつくっている。四季を感じるもの行事に関する置物や草花等、調度や装飾にも気をつけている。幼児向けの飾りつけにならないよう配慮している。 ご利用者が落ち着いて暮らせるよう音や光に配慮している。	共用空間は整理整頓を心がけるとともに、動線をしっかりと確保することで入居者の転倒リスクを軽減できるよう努めています。共用空間で過ごされる方も多く、脳トレ、歌を唄うなどして過ごされています。装飾は季節感を取り入れながら、子どもっぽくならないよう留意しています。室温や湿度は職員によって管理され、快適に過ごせるよう配慮しています。現在セラピー犬はいませんが、1つのユニットで金魚を飼育しており、順番に各ユニットの入居者がエサやりに行きがてら、他のユニットの入居者との交流機会にもなっています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を窓際や玄関に点在させるなど、配置等工夫し、ご利用者の皆さまが自由に、思い思いに過ごせるよう居場所をつくっている。 中庭やテラスにはベンチを置き、くつろげる場所を確保している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関しては入居時にご本人・ご家族と相談しながら慣れ親しんだ家具やお気に入りのものを継続して利用していただけるよう努めている。ご本人が居心地良く安心して過ごせるような居室作りを心掛けている。	各居室はゆとりのある造りになっており、収納スペースも広く設けられ、自宅から多くの調度品や馴染みの物が持ち込まれても十分なスペースが確保できます。仏壇、カーペット、テレビ、椅子、ダンス、鏡台、時計、カレンダー、写真などが持ち込まれ、思い思いに過ごせる居室作りがされています。介護用ベッド、エアコン、クローゼットは備え付けとして完備されています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者のできることを把握し、その方の力が発揮できるよう物の配置や表示を工夫している。動線上には、動くものなど危険が伴うものは配置しないよう安全に配慮している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム
翠嵐の風 紫苑棟

作成日

令和7年9月18日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	職員により記録の質に差が生じている	全職員が記録の重要性を理解して、適したタイミングで正確な記述ができる	記録不備があった時に入力された電子記録に追記で注意を促していく。	今年度
2	13	教育や指導する意識	入職者に対して、誰でも教育や指導ができる	入職者に対して、在職者から積極的に関わり、教育の計画を立てていく。また教育経過を双方で確認する時間を持つ。	今年度

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム 翠嵐の風
ユニット名	萌黄棟

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように
	○ 2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている
	○ 2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	○ 2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を毎日の朝礼時に唱和し共有を図り、深められている。地域密着をベースにした理念のもと、日々のケアの組み立て、ケアカンファレンスにおける方向性の確認を行い実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域住民の方々との相互交流を推進している。（事業所で行う秋祭り、防災訓練等への案内、地域行事/町内盆踊り、運動会等）への参加をしている。）		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事の参加他、定期の避難訓練時などに近隣の方々をお招きした際や、運営推進会議の時などに現状をお伝えし、ご理解を頂く努力を継続している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の運営状況を報告した上で、参加者から運営状況に関する意見や助言、地域情報などを頂き、職員間で共有するとともに日々のサービスにつなげている。令和6年度以降対面での会議に移行済み。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には地域包括センターの職員に参加して頂き、運営状況の報告を行い、意見助言を頂いている。（同上）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する研修を定期的開催、全職員が身体拘束廃止についての理解を深め日々のケアに取り組んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止法に関する研修を定期的開催、全職員が虐待防止についての理解を深め日々のケアに取り組んでいる。また、毎年高齢者虐待自己点検シートを利用し点検を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を定期的開催、全職員が理解を深められるよう取り組んでいる。ご案内ファイルにもパンフレットを準備し、制度の利用を検討されているご家族に対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時の際、難しい言葉についてはご家族に分かる言葉に置き換えるなど工夫しながら丁寧な説明を行い、ご家族からの疑問には担当部署職員の協力も得ながら説明し、ご理解の確認を行っている。入居前の施設見学時より、重要事項については伝えるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会、運営推進会議、ご家族訪問時等において意見、要望を確認している。またケアプラン更新時においてプラン説明とともにご意見を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、毎月のユニット会議で職員からの意見、提案を徴収し業務改善につなげている。日々の業務においても随時意見を吸い上げている。また半期ごとに職員会議の場において事業所運営の報告をしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段よりコミュニケーションを図ることを意識し、適宜面接を行い各自が目標を持ち業務に当れるよう取り組んでいる。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のレベルに合った法人内外の研修への参加を勧めている。研修計画の案内、またそのためのシフト調整を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人同地区の各サービス事業所との交流を適時行い、情報共有しサービスの質向上に向けた取り組みを行っている。グループホーム連絡会に参加までは至ってないが、情報を得る努力をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の施設見学時点より、困りごとやご要望等、また生活歴を含めた情報収集を行い入居当初の関係づくりに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至る経過、生活、対人関係、ご本人・ご家族の不安や要望を傾聴し、安心できるグループホームでの生活が提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける際、ご本人・ご家族のニーズを見極め、GHにおけるサービス内容と照らし合わせながら出来る事出来ない事の提示と、出来ない事に対する代替案を提示しながら、今必要とするサービスの紹介に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念を忘れず、ご本人の特徴、強みを大切に生活を送れるように支援を行っている。またご利用者の気持ちに寄り添い日々生活を共にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に可能な限り面会に来て頂きたいことを随時お伝えして、訪問しやすい環境を作っている。またご家族がホームの活動に参加できる場面や機会を作っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様のご許可を得たうえで友人や知人の訪問を受けている。また電話の自由使用・取次ぎを行っている。盆や正月等親戚の集まる場への参加や帰郷を支援している。行きつけの美容室、利用医療機関等の関係を継続できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は一人ひとりのご利用者を良く理解し、アクティビティへの参加、ご利用者同士の関わり合いを配慮しながら環境・場面を提供している。少しずつユニット間の交流をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、入居中の生活やケア内容についてなど必要に応じてご家族様に提示している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々交わす会話の中から聞かれるご希望やご意向、困難な場合はこれまでの生活歴やご本人様の行動、ご家族様からの情報を通じて推測されるものなどをケースカンファレンスにおいて情報共有しながら支援につなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時アセスメントにおいて生活暦・馴染みの暮らし方・生活環境・これまでのサービスの利用状況を把握している。入居後においてもより詳細な情報を得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で関わりながら、心身状態の変化への気づき、今できることできないことを見極め、申し送りやカンファレンスにて周知を図り、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者・ご家族の意向を伺い、また本人がより良く暮らすための工夫や意見をケースカンファレンスや申し送りの中で話し合い、本人主体で生活が出来る介護計画の作成に努めている。また、医療専門職など他職種との連携にも努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活や健康状態等、ケアの実践・結果・気づきを記録に残し、職員間で共有しケアや介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者・ご家族を取り巻く状況の変化に応じて、行政のサービスや利用可能な民間のサービスの紹介を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方による定期的な訪問、多彩な活動への参加、地域主催の行事への参加、飲食や買い物等生活の行動範囲を拡げ、楽しく豊かな生活の支援に努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による訪問診療を利用する方と在宅時からのかかりつけの医療機関を継続利用している方がいらっしゃるが、どちらも受診時に生活の様子・身体状態等伝え、連絡がとれる関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護師訪問時における介護職員との情報交換、随時の介護職員からのご利用者の状態変化や気づきの報告、相談から、観察視点の指示や、医療機関受診等の助言をもらいながら健康面での支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の必要情報を関係機関に速やかに伝えるようにしている。また、早期に担当医師や相談員に面接し身体状態や今後について話し合っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化・終末期に関わる指針を示し説明、同意書に事業所の対応等の確認事項を記載し同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、確認しやすい場所に設置している。定期的に研修を開催し知識・技術の習得に努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練を年複数回行なう事を目標とし、多くの職員が参加できるようにしている。座学の勉強会も行っている。町内会、家庭防災員との協力体制が出来、意見を頂けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の理念に基づきご利用者お一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう言葉かけや対応に配慮している。また、個人情報に関しても守秘義務の徹底に努めている。定期的な研修開催とともに、職員個人目標を設定し取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々関わりの中でその方の希望や関心事を見極め、ご本人が選び易い場面づくりをしている。言葉だけでなく表情や行動を観ながら思いの把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムに配慮しながら、起床・食事・入浴・就寝時間等柔軟に対応している。その方のペースを大事に待つケアを重視している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者個々の個性を尊重し、生活場面に合わせたその人らしい服装を支援している。訪問美容ではカット・パーマ・毛染め等ご本人の意向に添っていただいている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配達業者により、高齢者向け福祉メニューを利用。季節感が感じられるものや、時にはご利用者からのリクエストに応えメニューに変更している。食事準備から片付けまで、ご利用者と共に行い役割創出を心掛けている。心地よいBGMをかけたり食事が楽しめるような環境づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者一人ひとりの食事摂取量は毎食確認している。水分においても制限や摂取量が少ない方に対しては毎回の確認を行っている。またご利用者の体調や状態によっては食事形態を変更しながら摂取量に注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者お一人ひとりの習慣やできること・できないことを把握し、個人の能力に応じた支援をしている。 ご希望の方には、歯科衛生士による口腔ケアが受けられる体制を整えている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ケースカンファレンスにおいてその方の排泄パターン等の共有を図り、自尊心を傷つけない排泄支援に努めている。 意志伝達が出来ない方は、表情・言動を観察しながら適宜トイレにご案内し失敗しない排泄ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師・看護師より便秘の原因や及ぼす影響について助言を頂きながら、体操・腹部マッサージ・散歩・繊維質・腸内環境を整える乳酸菌飲料・水分量の確保等、個々に応じた予防・改善に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	できる限りお一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、ゆったりと気持ちよい入浴ができるよう配慮している。 排泄失敗等あった場合等、必要に応じて入浴機会を作るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は家事、レクリエーション、散歩等の活動を通し夜間の安眠につなげられるよう努めている。習慣や身体状況、活動に合わせて日中において休息がとれるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者が使用している薬剤の治療目的・薬の用法や用量を把握し、医師の指示通りに服薬できるよう支援している。また、いつでも確認できるよう、ご利用者個々の処方箋をファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々日常の中で、お一人ひとりの楽しみや役割、出番が見出せるよう、場面作り等行っている。認知症の進行が見られる方も同様にその方が持つ強みを生かす支援に努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買物や散歩の他、外食や地域の行事等に出かけられるよう支援している。 知人やご家族面会時にも、外食や散歩に出かけられるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族と話し合い、所持金の管理ができるか把握して、できる部分はやっていただいている。 買い物では、ご本人の能力に応じてご自分の財布から支払できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の携帯やホームの電話を自由に使用していただいている。 年賀状等の手紙のやり取りを支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は温かく和やかな生活的な雰囲気をつくっている。四季を感じるもの行事に関する置物や草花等、調度や装飾にも気をつけている。幼児向けの飾りつけにならないよう配慮している。 ご利用者が落ち着いて暮らせるよう音や光に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を窓際や玄関に点在させるなど、配置等工夫し、ご利用者の皆さまが自由に、思い思いに過ごせるよう居場所をつくっている。 中庭やテラスにはベンチを置き、くつろげる場所を確保している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関しては入居時にご本人・ご家族と相談しながら慣れ親しんだ家具やお気に入りのものを継続して利用していただけるよう勧めている。ご本人が居心地良く安心して過ごせるような居室作りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者のできることを把握し、その方の力が発揮できるよう物の配置や表示を工夫している。動線上には、動くものなど危険が伴うものは配置しないよう安全に配慮している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム
翠嵐の風 紫苑棟

作成日

令和7年9月18日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	職員により記録の質に差が生じている	全職員が記録の重要性を理解して、適したタイミングで正確な記述ができる	記録不備があった時に入力された電子記録に追記で注意を促していく。	今年度
2	13	教育や指導する意識	入職者に対して、誰でも教育や指導ができる	入職者に対して、在職者から積極的に関わり、教育の計画を立てていく。また教育経過を双方で確認する時間を持つ。	今年度

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム 翠嵐の風
ユニット名	茜棟

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3, 利用者の1/3くらいの
	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3, たまにある
	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3, 家族の1/3くらいと
	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	○ 2, 数日に1回程度ある
	3, たまに
	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	○ 2, 少しずつ増えている
	3, あまり増えていない
	4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3, 職員の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	○ 2, 家族等の2/3くらいが
	3, 家族等の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を毎日の朝礼時に唱和し共有を図り、深められている。地域密着をベースにした理念のもと、日々のケアの組み立て、ケアカンファレンスにおける方向性の確認を行い実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域住民の方々との相互交流を推進している。（事業所で行う秋祭り、防災訓練等への案内、地域行事/町内盆踊り、運動会等）への参加をしている。）		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事の参加他、定期の避難訓練時などに近隣の方々をお招きした際や、運営推進会議の時などに現状をお伝えし、ご理解を頂く努力を継続している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の運営状況を報告した上で、参加者から運営状況に関する意見や助言、地域情報などを頂き、職員間で共有するとともに日々のサービスにつなげている。令和6年度以降対面での会議に移行済み。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には地域包括センターの職員に参加して頂き、運営状況の報告を行い、意見助言を頂いている。（同上）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する研修を定期的に関催、全職員が身体拘束廃止についての理解を深め日々のケアに取り組んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止法に関する研修を定期的に関催、全職員が虐待防止についての理解を深め日々のケアに取り組んでいる。また、毎年高齢者虐待自己点検シートを利用し点検を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を定期的に関催、全職員が理解を深められるよう取り組んでいる。ご案内ファイルにもパンフレットを準備し、制度の利用を検討されているご家族に対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時の際、難しい言葉についてはご家族に分かる言葉に置き換えるなど工夫しながら丁寧な説明を行い、ご家族からの疑問には担当部署職員の協力も得ながら説明し、ご理解の確認を行っている。入居前の施設見学時より、重要事項については伝えるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会、運営推進会議、ご家族訪問時等において意見、要望を確認している。またケアプラン更新時においてプラン説明とともにご意見を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、毎月のユニット会議で職員からの意見、提案を徴収し業務改善につなげている。日々の業務においても随時意見を吸い上げている。また半期ごとに職員会議の場において事業所運営の報告をしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段よりコミュニケーションを図ることを意識し、適宜面接を行い各自が目標を持ち業務に当れるよう取り組んでいる。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のレベルに合った法人内外の研修への参加を勧めている。研修計画の案内、またそのためのシフト調整を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人同地区の各サービス事業所との交流を適時行い、情報共有しサービスの質向上に向けた取り組みを行っている。グループホーム連絡会に参加までは至ってないが、情報を得る努力をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の施設見学時点より、困りごとやご要望等、また生活歴を含めた情報収集を行い入居当初の関係づくりに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至る経過、生活、対人関係、ご本人・ご家族の不安や要望を傾聴し、安心できるグループホームでの生活が提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける際、ご本人・ご家族のニーズを見極め、GHにおけるのサービス内容と照らし合わせながら出来る事出来ない事の提示と、出来ない事に対するの代替案を提示しながら、今必要とするサービスの紹介に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念を忘れず、ご本人の特徴、強みを大切に生活を送れるように支援を行っている。またご利用者の気持ちに寄り添い日々生活を共にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に可能な限り面会に来て頂きたいことを随時お伝えして、訪問しやすい環境を作っている。またご家族がホームの活動に参加できる場面や機会を作っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様のご許可を得たうえで友人や知人の訪問を受けている。また電話の自由使用・取次ぎを行っている。盆や正月等親戚の集まる場への参加や帰郷を支援している。行きつけの美容室、利用医療機関等の関係を継続できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は一人ひとりのご利用者を良く理解し、アクティビティへの参加、ご利用者同士の関わり合いを配慮しながら環境・場面を提供している。少しずつユニット間の交流をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、入居中の生活やケア内容についてなど必要に応じてご家族様に提示している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々交わす会話の中から聞かれるご希望やご意向、困難な場合はこれまでの生活歴やご本人様の行動、ご家族様からの情報を通じて推測されるものなどをケースカンファレンスにおいて情報共有しながら支援につなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時アセスメントにおいて生活暦・馴染みの暮らし方・生活環境・これまでのサービスの利用状況を把握している。入居後においてもより詳細な情報を得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で関わりながら、心身状態の変化への気づき、今できることできないことを見極め、申し送りやカンファレンスにて周知を図り、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者・ご家族の意向を伺い、また本人がより良く暮らすための工夫や意見をケースカンファレンスや申し送りの中で話し合い、本人主体で生活が出来る介護計画の作成に努めている。また、医療専門職など他職種との連携にも努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活や健康状態等、ケアの実践・結果・気づきを記録に残し、職員間で共有しケアや介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者・ご家族を取り巻く状況の変化に応じて、行政のサービスや利用可能な民間のサービスの紹介を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方による定期的な訪問、多彩な活動への参加、地域主催の行事への参加、飲食や買い物等生活の行動範囲を拡げ、楽しく豊かな生活の支援に努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による訪問診療を利用する方と在宅時からのかかりつけの医療機関を継続利用している方がいらっしゃるが、どちらも受診時に生活の様子・身体状態等伝え、連絡がとれる関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護師訪問時における介護職員との情報交換、随時の介護職員からのご利用者の状態変化や気づきの報告、相談から、観察視点の指示や、医療機関受診等の助言をもらいながら健康面での支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の必要情報を関係機関に速やかに伝えるようにしている。また、早期に担当医師や相談員に面接し身体状態や今後について話し合っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化・終末期に関わる指針を示し説明、同意書に事業所の対応等の確認事項を記載し同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、確認しやすい場所に設置している。定期的に研修を開催し知識・技術の習得に努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練を年複数回行なう事を目標とし、多くの職員が参加できるようにしている。座学の勉強会も行っている。町内会、家庭防災員との協力体制が出来、意見を頂けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の理念に基づきご利用者お一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう言葉かけや対応に配慮している。また、個人情報に関しても守秘義務の徹底に努めている。定期的な研修開催とともに、職員個人目標を設定し取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々関わりの中でその方の希望や関心事を見極め、ご本人が選び易い場面づくりをしている。言葉だけでなく表情や行動を観ながら思いの把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムに配慮しながら、起床・食事・入浴・就寝時間等柔軟に対応している。その方のペースを大事に待つケアを重視している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者個々の個性を尊重し、生活場面に合わせたその人らしい服装を支援している。訪問美容ではカット・パーマ・毛染め等ご本人の意向に添っていただいている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配達業者により、高齢者向け福祉メニューを利用。季節感が感じられるものや、時にはご利用者からのリクエストに応えメニューに変更している。食事準備から片付けまで、ご利用者と共に行い役割創出を心掛けている。心地よいBGMをかけたり食事が楽しめるような環境づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者一人ひとりの食事摂取量は毎食確認している。水分においても制限や摂取量が少ない方に対しては毎回の確認を行っている。またご利用者の体調や状態によっては食事形態を変更しながら摂取量に注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者お一人ひとりの習慣やできること・できないことを把握し、個人の能力に応じた支援をしている。 ご希望の方には、歯科衛生士による口腔ケアが受けられる体制を整えている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ケースカンファレンスにおいてその方の排泄パターン等の共有を図り、自尊心を傷つけない排泄支援に努めている。 意志伝達が出来ない方は、表情・言動を観察しながら適宜トイレにご案内し失敗しない排泄ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師・看護師より便秘の原因や及ぼす影響について助言を頂きながら、体操・腹部マッサージ・散歩・繊維質・腸内環境を整える乳酸菌飲料・水分量の確保等、個々に応じた予防・改善に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	できる限りお一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、ゆったりと気持ちよい入浴ができるよう配慮している。 排泄失敗等あった場合等、必要に応じて入浴機会を作るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は家事、レクリエーション、散歩等の活動を通し夜間の安眠につなげられるよう努めている。習慣や身体状況、活動に合わせて日中において休息がとれるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者が使用している薬剤の治療目的・薬の用法や用量を把握し、医師の指示通りに服薬できるよう支援している。また、いつでも確認できるよう、ご利用者個々の処方箋をファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々日常の中で、お一人ひとりの楽しみや役割、出番が見出せるよう、場面作り等行っている。認知症の進行が見られる方も同様にその方が持つ強みを生かす支援に努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買物や散歩の他、外食や地域の行事等に出かけられるよう支援している。 知人やご家族面会時にも、外食や散歩に出かけられるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族と話し合い、所持金の管理ができるか把握して、できる部分はやっていただいている。 買い物では、ご本人の能力に応じてご自分の財布から支払できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の携帯やホームの電話を自由に使用していただいている。 年賀状等の手紙のやり取りを支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は温かく和やかな生活的な雰囲気をつくっている。四季を感じるもの行事に関する置物や草花等、調度や装飾にも気をつけている。幼児向けの飾りつけにならないよう配慮している。 ご利用者が落ち着いて暮らせるよう音や光に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を窓際や玄関に点在させるなど、配置等工夫し、ご利用者の皆さまが自由に、思い思いに過ごせるよう居場所をつくっている。 中庭やテラスにはベンチを置き、くつろげる場所を確保している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関しては入居時にご本人・ご家族と相談しながら慣れ親しんだ家具やお気に入りのものを継続して利用していただけるよう勧めている。ご本人が居心地良く安心して過ごせるような居室作りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者のできることを把握し、その方の力が発揮できるよう物の配置や表示を工夫している。動線上には、動くものなど危険が伴うものは配置しないよう安全に配慮している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム
翠嵐の風 紫苑棟

作成日

令和7年9月18日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	職員により記録の質に差が生じている	全職員が記録の重要性を理解して、適したタイミングで正確な記述ができる	記録不備があった時に入力された電子記録に追記で注意を促していく。	今年度
2	13	教育や指導する意識	入職者に対して、誰でも教育や指導ができる	入職者に対して、在職者から積極的に関わり、教育の計画を立てていく。また教育経過を双方で確認する時間を持つ。	今年度

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。